

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫、課題（要約）	改善策
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・利用人数が多いときと少ないときの差が大きい。 ・人数が多く、部屋が足りないこともあったが、小集団での活動に変更し対応した。 ・利用人数によっては、部屋数が足りないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間帯によって、利用数が平均化し、バランスよく利用できるよう入園時に曜日の配慮を行う。
	2 職員配置は適切であるか。	8	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・現在一人減体制で運営している。 ・入園者が増加すると週1回の利用もできない利用者が出てくると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月から職員定数を満たしている。引き続き、業務量の平準化に努める。
	3 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	1		<ul style="list-style-type: none"> ・出勤時にモップ掛けや掃除機をかけたり、清掃している。 ・感染症予防に配慮している。 ・最近では人数が多く、プレイルームや感覚統合室を使用することがあり、最適な環境にならないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限りのある空間であるが、できるだけ環境整備を行っていきいたい。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか。	9	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく残業しないようにしたり、記録なども当日中の業務時間内に終わらせるように努めている。 ・事業の流れを理解し、PDCAサイクルに沿って適切な期間に振り返り、目標設定をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が広がり、一人の職員が担う仕事量も増えている。各評価の結果を踏まえた改善はもちろん、事務分掌は常に見直しを行う等、一人一人が経営に参画し、業務改善の意識を持つことが重要である。
	5 職員評価及び保護者評価の結果を踏まえ、事業所としての評価を行い、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	12			<ul style="list-style-type: none"> ・予約アプリの登録・利用率は100%となった。またアプリでの通信配信・アンケートの回答集計を行っている。 	
	6 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	12			<ul style="list-style-type: none"> ・職員の研究発表はとても勉強になったが、指導や訪問支援などの業務をしながらの研究は負担が大きかったと感じた。 ・医療受診や養護学校見学等と同行する機会を増やしている。リモート研修が増え、参加しやすい。 ・講師を招いての職員研修は勉強となり、講師との関係性も深まり、保育所等訪問支援の資質向上につながっていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一研究の取り組みは大変有意義で職員の資質向上に貢献したが、通常業務とのバランスや負担感を考慮しつつ、さらに上質な研修機会を設定していく。
適切な支援の提供	7 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で支援計画を作成しているか。	12			<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングに限らず、保護者と懇談する回数が増え、お子さんの発達について一緒に考えたり、課題を確認し合える時間が持てるなど、支援計画にも反映できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画、実践、評価のサイクルに沿って、時期を逸することなく実施していく。 ・使うアセスメントにより、項目や幅に違いがある。適切な目標を立て、細かな評価をするためには、別の適切な評価ツールを参考にすることも必要である。 ・単にツールを使用するだけでなく、予め評価基準を設定しておくことも重要。
	8 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	9	3		<ul style="list-style-type: none"> ・記録システム（ほのほの）にてアセスメントを定期的に行っている。 ・アセスメントシートや発達確認シートを活用し、保護者への説明や、関係機関への情報提供に使用している。 	
	9 支援計画に沿った支援が行われているか。	11			<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのモニタリングや懇談の回数を増やしたことで、その都度振り返りができるようになり、支援計画に沿った支援につながってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実践は支援計画をもとに題材を設定していくことが重要。どんな題材にするか、半年間程度の計画を立てておくことも必要。
	10 子どもの状況に応じて、個人活動と集団活動を適宜組み合わせ、支援計画を作成しているか。	12			<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導に加え、年長児Gや年少児Gなど、同年齢児との活動を支援内容に盛り込み、社会性や集団行動に対するアプローチも行っている。 ・他児が来ていないときに利用している児もいるが、グループ活動も自分で設定し、他児に集まってもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態や成長段階によって、個別の活動と集団指導を適宜配置することが必要。
	11 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	9	3		<ul style="list-style-type: none"> ・システム利用が定着し、利用者情報が一元化され、いつ誰が何をするのか職員間でPC上で確認し合えるようになった。一緒に活動する場面も増えている。 ・人数が多い日は、部屋の関係で話をするが、それ以外は特にない。他児と同じ予定になっている時は参加してもよいか、等の確認、協力は行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター会議、職員朝会は、計画案の提示、情報提供と共有、課題検討、等を行う場とする。 ・指導に必要な打合せや、分掌業務に必要な打合せは、センター会議の後の時間を使うが、担当者間で声がけして実施していく。 ・現況、全員が揃うのは火・水・木曜日しかないことを認識し、計画案等は事前に提示し、打合せ会議日を前もって設定しておくことも必要。

	12	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	6	6	<ul style="list-style-type: none"> 「打ち合わせ」と銘打っているわけではないが、情報共有は行っている。職員が全員揃っている状態ではないことが多い。 指導の合間の時間を活用し、職員同士でお子さんや保護者の様子について振り返りできている。 打ち合わせではなく、支援の振り返りを会話として話している。※この活動はこうだった等伝えと、他の先生が取り入れたりしている。 その日によってできないこともあるが、なるべくするように心がけている。 		
	13	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> システム導入で、給付費請求と連動したことで、記録漏れが減少した。 変化を書いている。振り返るとわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> センターにおける記録の重要性を改めて認識し、簡潔でありながらも必要な記録を残すよう徹底する。 	
	14	定期的にもモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて2回に分けて懇談するなどの工夫もしている。 半年に1回の支援計画。途中で見直しは難しい。(6か月前) 	<ul style="list-style-type: none"> 項目7、8を参照。 	
関係機関や保護者との連携	15	障害児支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	10	1		<ul style="list-style-type: none"> 療育の専門機関として求められるものはこれからもあるものと推測される。専門性を高める努力が肝要。 	
	16	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 保健師や子育てとの打ち合わせも定期的に行われている。 保健師、園の先生等定期的に懇談している。 保健師との連絡を定期的に行っている。 定期的な情報共有のほかに、何かあればその都度連携をしている。 		
	17	移行支援として保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 訪問や見学する回数が増え、情報共有でき、先生との信頼関係も深まっている。 幼稚園・保育園見学会に参加し、学校の先生と情報共有を行った。 		
	18	移行支援として小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 年1回に促われず、訪問や見学の際にその都度、情報共有会議を開催している。 		
	19	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 研修や医療受診同行等で直接関係機関と話し合う機会が多くなっている。また就学予定や転居予定の利用者に対しての見学同行や情報共有会議を開催している。 研修等でつながった事業所とZOOMでやり取りをし、研修内容を深めた。 市民セミナーと教育委員会主催の特別支援研修会で、放デイについての知識を深め、その際に職員間での情報共有を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 対面での研修の機会も回復してきていることもあり、講話を聞くだけではなく、より実践的な研修に参加する機会も増やしていきたい。 	
	20	地域の子ども・子育て支援会議へ積極的に参加しているか。	9	2	<ul style="list-style-type: none"> 参加する人が決まっているので、自身としては【積極的】には参加できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 要請があれば参加していく。 	
	21	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 年2回のモニタリングの他、何か問題や悩みが生じた際は、その都度話し合っている。 		
	22	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対し家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)等の支援を行っているか。	8	4	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に直接のペアレントトレーニング研修を勧めることはないが、児への声掛けの方法や、関わり方などは具体的に提示し、支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ研修の機会を設けていきたい。 	
	23	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	1	10	1	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めにはじまりの会は行ったが、その他はコロナの影響もあり、できていない部分は多い。 保護者同士の連携を望む声がある。今年度はグループ活動等が保護者同士が会う機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の活動については、関係者との話し合い等をもって方向性を決めていく。
	24	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 児発管が主として、希望があればすぐに対応している。利用者以外の方の相談についても適時対応して、支援に繋がるケースも増えてきた。 		

	25	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	12			<ul style="list-style-type: none"> ・アプリでの通信配信へ移行した。スマホやパソコンがあれば、いつでもどこでも通信や行事予定等を確認できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容等の充実については、引き続き取り組んでいく。 	
	26	個人情報の取り扱いには十分注意しているか。	10	2		<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から気を付けてはいるが、うっかりや万が一が無いよう、更に注意して取り組んでいきたい。 ・どこまでの情報を職員間で共有すべきか課題かと思われま。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本対応については改めてマニュアルを確認すること。 ・個人ファイルや機器の外部持ち出しは許可なくできないことを再確認する。 	
	27	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12					
	28	行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	4		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナのため、行事はできていないが、市民セミナーを実施（3）。 ・市民向けの療育相談会を新たに実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援事業の一環として、市民セミナーその他の啓発活動をさらに充実させるべく計画していく。 	
非常時等の対応	29	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知すると共に発生を想定した訓練を行っているか。	10	2			<ul style="list-style-type: none"> ・危機対応マニュアルは各自で再確認しておくこと。 ・避難訓練の内容や方法については工夫して実施する。 	
	30	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	2		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、心肺蘇生法の研修は実施しているが、救出やてんかんへの対応などを考えると十分ではないと思われる。 ・年2回避難訓練を実施。今年度は職員研修でAED研修を行った。 		
	31	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11	1		<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画懇談やモニタリングの際に確認は行っているが、途中変更等もあると思うので、更に定期的に確認するようにしていきたい。 ・医療受診に同行し、共通理解を図っている。 		
	32	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか。	12					
	33	ヒヤリハットの事例集を作成して事業所内で共有しているか。	11	1		<ul style="list-style-type: none"> ・共有フォルダにて事例を挙げているが、作成者は同じ人ばかりになっている。 ・ヒヤリ・ハットと思われる事例を報告記録することを周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット会議は方法を工夫して開催する。 ・虐待関係もマニュアルにあるので、基本事項は確認しておく。 ・必要な研修や協議を行う。 	
	34	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	1		<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度の虐待防止研修を受講した。 		
	35	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、支援計画に記載しているか。	8	1	3			